

XVI. 慢性疼痛集学的治療チーム

慢性疼痛は全成人の約30%が罹患しているとされており、わが国の健康損失の原因にもなっている。痛みは慢性化するに伴い、罹患部位の器質的異常や身体機能だけの問題ではなくなり、精神医学的要因、心理的要因、社会的要因が複雑に絡み合い、症状を増悪させ遷延させる。そのため慢性疼痛治療においては、医師とメディカルスタッフによる総合的かつ集学的な対応が求められ、患者さん個々の背景に合わせたきめ細かい治療内容、治療目標等を設定した集学的治療が必要である。

慢性疼痛集学的治療チームでは、患者さんと医療者の間で問題を共有し、また医療者間でもコミュニケーションを図りながら、治療目標を決定している。痛みの軽減だけが目的ではなく、社会活動を促進し、日常生活の質を高められるよう介入している。また、厚生労働省主催の慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 - 近畿地区に参画しており、その活動の一環として慢性疼痛に携わる医療従事者を対象に研修会を開催した。

XVI-1 集学的治療開始にあたり行った調整

チーム構成員

ペインクリニック部	医師	1名
精神科神経内科	医師	1名
公認心理師		2名
理学療法士		2名
看護師		1名

対象となる患者

- ・慢性疼痛で当院通院中の患者
- ・廃用症候群、動くことに恐怖心があり動いていない患者
- ・鎮痛薬、ブロックに依存的な患者

対象にならない患者

- ・理解力が乏しい(認知症や物忘れがある)患者
- ・モチベーションがなく継続できない患者
- ・疾病利得のある患者

XVI-2 活動内容

ペインクリニック医が慢性疼痛に対する集学的治療を必要と考える患者さんに対し、看護師が面談し精神症状・社会的背景や日常生活の状況を問診する。カンファレンスで当該患者さんについての情報を共有し、チーム内で治療方針を立案する。理学療法士による運動療法、心理士による認知行動療法を患者個別のスケジュールで実施し、定期的に行っているチームカンファレンスで治療方法や効果について評価する。

XVI-3 2023年4月—2024年3月介入件数

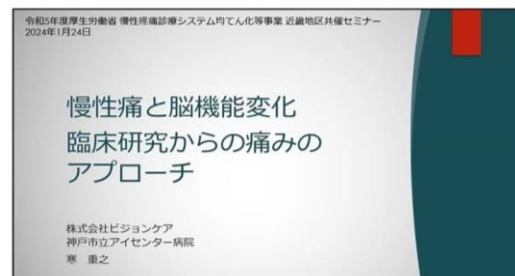
対象患者	
件数	20
年齢(中央値)	16-90(46)
男女比	3:17

介入時の診断

診断名	件数
一次性慢性疼痛	10
術後痛および外傷後慢性疼痛	1
慢性神経障害性疼痛	7
慢性筋骨格系疼痛	1
慢性頭痛および口腔顔面痛	1

XVI-4 研修会の開催

2024年1月24日(水)



2024年2月28日(水)

